



管内研のまとめ

R5 利尻島大会

～単元および本時の目標達成に繋がるアウトプットの設定～

利尻富士町立利尻小学校

研究協議の記録 ◆3・4年生 国語

単元名 3年生「わすれられないおくりもの」

4年生「いろいろな手紙を書こう」

アウトプットに関わって

主に3年生

- ◎インプット・アウトプットに偏りがないように活動が設定されていました。
- ◎複式としての学習スタイルが大変素晴らしかった（個の学び→交流）
- ◎アウトプットのための手立てがとられていた
- ◎全員自分なりの言葉で書けていて凄く良い。
- ◎児童だけでまとめを作れるのは凄く力があると思った。
- ◎題名の意味を早い段階で話し合う方法もあったかもしれません。（アウトプットしてみる）
- ◎気持ちのラインがとても多くなっていた→どうやってまとめる力をつけていくのか？
- ◎サイドラインを引いた 2 つの表現についてのもぐらの気持ちをそれぞれノートに書くことができていた。想像？根拠は？
- ◎今日の活動だったら、なぜ変わったのかが大事なのだと思いました。
- ◎話させたいならそれなりの・問い・課題。ツールが必要だったのではないか
- ◎変化を見とれるような言語活動（手紙 心情曲線）はしなかったのか
- ◎まとめ方のルール 皆でまとめる必要はあったのだろうか
- ◎課題に「変化」という要素が入っても良かったのでは

主に4年生

- ◎自分で書き始めることができていたので前時までの確認（インプット）がしっかりできていた。
- ◎自己選択した方法で文章を書けていた。PC→お互い確認しあっていた 手紙→それぞれで
- ◎発表形式で交流していたが、2人1組で読み合っても良いところを見つけられるかも
- ◎手紙の書き方がわからず手を出せないとき、どう手をさしのべるか？
- ◎あなたなら手紙 メールのどちらが良いと思う？のような発問から良さに気づかせる方法なども考えられるのでは。
- ◎指導事項を考えるアウトプットにしてみても「きもちの変化を読み取るには？」
- ◎感想発表の時歳に文章表現の巧みさなどの視点が多かったと思う、それぞれの良さを出す際に視点がインプットされていたか。

全体

- ◎複式の学びは身につけているのでさらに深い対話になっていくと良いですね。

見通し 自己評価 相互評価

主に3年生

- ◎本時の流れを丁寧に板書しておくことで見通しが持てるようにしていた。
- ◎単元 教科 の流れができあがっているから子供達だけで進められている。
- ◎見通し 手立てがあり良かった。
- ◎課題を子供と共に設定しようとすることで見通しを必然的に持たせることができる。
- 読み取る着目点まで伝えておくとも良いかもしれません。
- より具体的な課題設定で見通しを持てると思うので「変化」をいれても良かったのではないかな。
- 3年生の課題 もぐらの気持ちを考えてまとめよう（変化に気づかせたい）もぐらの気持ちはどのようにかわったのだろうか？変わったことを前提にした課題もあったかもしれません。

主に4年生

- ◎機器のトラブルへの対処が良いです。
- ◎手紙の書き方が板書されていて正しい書き方がすぐにわかるし、発表を聞いたときにポイントが押さえられているか比較しやすいです。
- 4年生 わからない子 O・Aさんへの手立てが必要だったと思います。
- メールを送る方はお年寄りで良かったのか。相手に会った物を送るのが良いのではないのでしょうか。

全体

- 振り返りの視点 中理社では、「今日一番大切だったことは？」で取り組んでいるがどうしていけばよいか考えています？
- 間接指導時は評価が難しいですね。発言の評価など。

その他

主に3年生

- ◎お互いを尊重しながら考えを発表し、学習リーダーが上手くバランスをとって進めていた。
- ◎まとめでは児童同士が話し合い、全員がノートに記述できていた点は普段から鍛えられている事を感じましたし、記述量の多さにも驚かされました。
- 学習内容が多かったように感じました。時間を生み出すなら物語前半部のあなぐまの気持ちについて振り返る部分は不要ではないでしょうか。
- 課題はまとめに正対した物が良かったと思います。
- ファシリテーターとして学びが深まるような問い返しがあると良かった「根拠はどこ？」
- できる子の意見で終わらないための工夫が必要

主に4年生

- メール 手紙 自分の得意な方を選ばせる事で主体的な学びにつながるのではないのでしょうか。
- 相手意識 おじいさんおばあさんにメール？手作りの良さなど選ぶときの視点も必要。
- タブレット組と手紙組をペアにするとお互いの表現が活かされたかもしれません。

全体

- ◎子供達の声から課題が言語化されていて良いと感じました。
- ◎子供達でまとめを考える点や学習の仕方が身につけている点が良い。
- ◎スムーズで自然な導入でした。
- ◎前時との繋がりを大切にしている。
- 対話=インプット&アウトプットなのでアウトプットのみではないのでは
- 他の場面でも活用できるアウトプットのゴールが必要。
- 単元計画を見直してみると狙いもより絞れたのでは

■単元 利尻小学校3・4年 国語「わすれられないおくりもの」「いろいろな手紙を書こう」

授業者	伊藤太博教諭	司会者	小野文雅教諭	記録者	伊藤慎也教諭
助言者	黒川透教諭				

授業者から

- ・ 普段の授業よりも教師側がしゃべってしまった。
- ・ 子ども自身で授業を進める力が大切。育てていきたい。(わたりをしている間子ども達で進められるように)
- ・ インプット&アウトプットカードの提示ができなかった。
- ・ 4年生側は子供たち自身で話し合いを活発にさせたかった。
- ・ 3年生はまとめが中途半端になってしまった。
- ・ 今後は学習内容と題材のタイトルとのつながりに着目させていきたい。

質問

- ・ 授業構想の中で「子ども達からこの言葉を引き出したい」と思っていたものはありますか？
→好きだった、難しかっただけでなく、理由も含めて引き出したかった。
- ・ 意識して書かせていることはありますか？
→自分なりのまとめを書かせることを大切にしたい

各グループから

A グループ

- ・ どちらの学年も学び方が自立している
- ・ 3年生 課題の中に「変化」というキーワードを入れておけばよりよくなるのでは先生から「〇〇に着目して読んでね」と視点を持たせておく
- ・ 4年生 課題と活動にズレがあったのでは。しかし相手意識、目的意識はしっかりもっていた。苦手な子も含めてアウトプットができたり、意味を理解できたりしていればさらによくなる。

B グループ

- ・ 4年生 課題の必要感を持たせられればよかった
ペア活動すれば子ども達が互いに補完しあえていたかもしれない
- ・ 3年生 子どもたち自身で進められていた。
リーダーシップを発揮している子がいて進行していたが、意見が弱い子の記述がもれていた。

C グループ

- ・ 3年生 課題と単元構成が焦点化されていなかったかも。
- ・ 4年生 老人ホーム相手に適した手紙は電子メールなのだろうか

D グループ

- ・ 3年生 気持ちが変わったことを前提に話し合わせていけばよりよかった
「なぜ？」という視点を入れて、まとめるだけで終わらないようにすればよかった
- ・ 4年生 自分たちで考えることができていた。

助言者から

- 3年生、4年生も子どもの発言や活動主体で授業づくりができていてよかった。
- 「書くこと」のポイント→目指す書き方を具体的に！明確に！
例：「ミニループリック」を使って具体的にゴールを示す
 - ①みんなが見つけた筆者の工夫を取り入れている！
 - ②「はじめ」「中」「終わり」の3部構成で書くことができています！
 - ③「終わり」に、わかったことを基にした自分の考えを書くことができています！
- 「読むこと」のポイント→読み方の獲得と効果の実感→読む力のUP!
場面を結び付けて読み取ることを大切にする。
- 「なぜ悲しくなくなったんだろう？」という視点を持たせていければ、さらに深まったかも。
- 黒川先生が大切にしている国語指導
 - ①つけたい力の超具体化！
 - ②ミニループリック！
 - ③「読み方」を獲得！&表現に注目！
 - ④個別最適化の学び（自己調整する力）
- 子ども達の中でごちゃごちゃになっている「根拠」と「理由付け」を区別することが大切！
「根拠」 →文章の記述や資料
「理由付け」→人それぞれのとらえ方、考え方
- 読み取ったことを基にした自分の考えのまとめ方→三角ロジック
 - ①自分の考え・主張→②根拠→③理由付け



参観者からの授業の感想

《授業を見ていただいた感想やアドバイスなど》

- 自分自身でもできていないことやできていたことの意味がわかったので勉強になりました。
- 今日は、国語の授業を公開していただきありがとうございました。授業を参観して、まずは子どもたちが学び方の獲得、自律して学ぶという力が定着していると子どもたちの姿を見て感じました。
- 国語はどうしても教科書教材の内容にかかわることに偏りがちになってしまいますが、一番大切なのは、子どもたちの学びの自覚化、その時間で何を学んだと子どもたちに言わせたいという所から授業づくりをスタートしていけばよいかと思います。なかなか国語の授業を見る機会がないので、今回はありがとうございました。とても勉強になりました。
- 複式学級でのわたりが行われている中で、子ども達が自主的に学びに向かえる力が身についていることを感じられました。
- 3年生、4年生ともに、一人一人の児童のアウトプットが見られる授業でした。3年生は、教科書本文の根拠を基にした考えであれば、より良かったかと、感じました。4年生のお誘い文書は、短い時間で、よくやり切ったと感心しました。
- アウトプットよりも目標を達成するための単元構成の工夫や教師の声かけ、問い返しの想定をしていくことが土台として必要そうだなと感じました。それありきのアウトプットかと。先生、頑張ってください。
- 自分たちで頑張るということはよく定着しているように思いました。4年生はもっと子供どうして相談できると良かったのかな？と思いました。子供達がやりたいという目的意識のある課題設定だと良かったですね。（なかなか難しいですが…。）
- 子供の集団力が複式だとつくなと感じました。どの子も課題に向き合い特に3年生がみんなで黒板を作っていくところがいいなと思います。お疲れ様でした。
- 自分たちで学習を進める力が身についていると感じました。

《研究仮説と内容が授業の中で効果を見せていたか》

- 何がインプットとアウトプットが具体的にほしかったです。抽象的でした。アウトプットに力を入れて行っているということで、子どもたちの自然な学び合いや自分たちで頑張ってみようという意欲に繋がっているのではないかと思います。
- 本時の中ではアウトプットの時間が多く、子ども達が自主的に活動できていて素敵だなと感じました。インプットの場面が本時では短かったので、前時までの授業でのインプットでの声かけなどはどう行われていたのかが気になりました。
- 4年生のアウトプットは、書くことと、良さを見つけることと、やるが多かったので、焦点を絞ったものになればと思いました。
- とても興味深い仮説だったので、今回の大会での皆さんの意見を基にあと数年続けてみてほしいです。（教師との対話をもっと見れたかなあと感じました。）
- どこまでインプットで、どこからアウトプットなのか…。もう少し研修の所で説明がほしかったです。（ランドデザインなど）
- 子供達の声で課題が作られていました。

《その他（上記以外で気づいた点など）》

- これからの時代、アウトプットなどの教科を横断したコンピテンシー的なものがすごく大切かなと個人的に感じています。アウトプットの力を高めていくために、各学年でどの時期に、どのように土台となる力をつけていくのか、各学年やら9年間のゴールはどこになるか等を整理していくと、素晴らしい学校研究になるのではないかと感じています。本日はありがとうございました。
- 授業者の伊藤先生をはじめ、会場校の先生方の準備のおかげでとても学びのある研修になりました。ありがとうございました。
- 振り返りの視点として、本校で、実践している視点を紹介します。
 - 1 できるようになったり、理解が深まったことは？
 - 2 課題は、どのくらい達成できたか？
 - 3 課題解決に向けて、大切にしたり、工夫したりしたことは？
 - 4 学びの中でもっとがんばりたいことは？
 - 5 助言や振り返りからどのように改善して行きたいか。
ここから、児童が選んで書いたり、今日は、この視点で書いてね、と教師が指定したり、臨機応変に活用しているようです。
- 指導案の中に子供の反応をもっと書いておけば想定になるのかと思いました。
- 私も3・4複式をもっているのでもっとも落ち着いて頑張っている子供達を見て、日頃の学級経営が良いんだなと感じました。大変な中授業を見せていただきありがとうございました。授業改善チェックリストわかりやすいですね！
- 研究協議、久々に顔を合わせて行えて楽しかったです。色々準備大変だったと思いますがありがとうございました。



終わりに

本町において、複式学級は本校のみである。研究大会は、島外（町外）の先生方から多くの意見や示唆を頂ける貴重な機会となった。学校研究、授業研究を中心とした校内研修体制について俯瞰してみる機会を得たことで、さらなる研究の深まりへの責任と自覚を持つことができた。本校の教職員にとって、日々の教育活動への自信と共に、課題や改善点へ視野を広げることにつながった。

児童にとっては自分たちの頑張りを評価して頂いたことで、大いに自信につながったことは言うまでも無い。小さなコミュニティの中で伸び伸びと生活している反面、高い志を掲げて努力する力が乏しい子どもたちにとって、良いきっかけとなる一日になった。

子どもに必要な資質・能力を身につけさせることができるよう、これからも日々の教育活動に邁進するのみである。